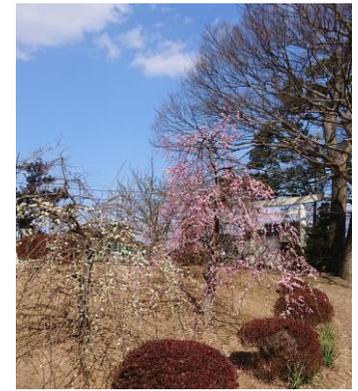


「家がいいね」 第214号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2022. 3. 1



「梅は咲いたか？」と小俣の離宮院公園に行くと、枝垂れ梅はまだ控えめで目立ちません。今年の寒さを教えるようにまだ準備中。春と花を探しに出かけてみましょう。自分の目で。

100万回 死んだねこ???



私が好きな佐野洋子さんの絵本、本当は「生きたねこ」ですね。覚え間違いで笑いますが、次に**生き死に**を、考えさせられます。100万人に愛され100万回も死んで生きた、りっぱなねこでした。とらねこ自身は1回も

泣いたことはありませんでした。ある時は、戦争上手の王様のねこだったのですが、矢が当り死んでしまいます。王様は泣き戦争を止め、ねこを埋めました。ねこは嫌いな人と関わって死に埋められ続けました。ねこは、死ぬのなんか、へいきだったのです。



「ある時 ねこは誰のねこでもありませんでした」

のらねこになったねこは自分
がだいき、100万回を自慢
しました。1回も生き終わって
いない白いねこにひかれ「一緒
にいていいかい」と訊きました。
白いねこ子ねこたちを、自分
よりも好きになっていました。



「ねこは 100万回も泣き、動かなくなりました」

「もう けつして生きかえりませんでした」の文
で、絵本は終わりになります。
人は永遠と周囲の称賛を求める
ものです。でも一回限りの生に
慈しむものがあるのでしょうか。



173号(2018年10月)で、「この
絵本に触れていたこと」に気がきました。

人間が生きているって「こういうことかしら?」

(中村)「生きものということを忘れないことね」
(内藤)「次々と変わっていく場が看取りですね」



2月の新刊 ポプラ社 1,650円
近くの本屋さんでお求めください。

深くてイイ対話が弾む本です。生きものには、
生きた時間の経過が必須なのです。急がず慌せず
思い通りに行かず、手間のかかるものなのです。

「ころ」

おかあさまは
おとなで大きいけれど、
おかあさまの
おころは小さい。

だって、おかあさまはいました、
ちいさい私でいっぱいだった。

わたしは子どもで
ちいさいけれど、
ちいさいわたしの
ころは大きい。

だって、大きいおかあさまで、
まだいっぱいにならないで、
いろんなことをおもうから。



かねこ みずび 1930年没

外来予約を制限しています

コロナワクチン接種のために、3月18日(金)
22日(火)は、在宅患者さん宅へ訪問します。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御薊町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<http://isezaitaku.com>

→バックナンバー閲覧可

